

**「人材力活性化プログラム（仮）」作成にあたっての論点整理（案）****1. 論点****① 総論****（プログラムの性格）**

- 地域活性化に向けた人材力活性化の取組の目指すべき方向性を示し、地域での取組の「気づき」となるものとし、指針と対応策を兼ねたものとしてはどうか

**（活用する主体）**

- 人材力活性化に携わる自治会・町内会、NPO等の地域活性化に関わる団体や自治体を主な活用主体として想定してはどうか

**（活用方法）**

- 自治会・町内会、NPO等の地域活性化に関わる団体や自治体が、当該団体の構成員の人材力を活性化する場合や地域活性化に携わる人材力を活性化する場合の参考として用いることを想定してはどうか

**（作成方針）**

- 「人」に着目し収集した事例から、地域で求められる様々な人材像や現状を示すこととしてはどうか
- 目指すべき人材力活性化の方向性に沿って、重点的に取り組む事柄、具体的な活性化事例や総務省関連施策等を体系化してはどうか
- 構成員や調査対象の言葉を活かした表現で記述してはどうか

**（次年度以降の展開）**

- 社会情勢等の変化を踏まえ、時代に対応して「進化する」プログラム及びカリキュラムを目指すこととしてはどうか
- 具体的には、プログラムについては人材力活性化事例等の追加、カリキュラムについては作成分野等の拡大を図ることを念頭においてはどうか

**（カリキュラムの性格）**

- 人材力活性化の具体的取組の参考となるよう、学習項目、学習方法、講師、参考文献等の学習体系のイメージを示すこととし、いわば分野毎に学ぶべき事項のオリエンテーリング的なものとしてはどうか

**② 構成****（構成のイメージ）**

- 趣旨、基本的考え方等の指針を前半に示し、対応策は後半に示すという構成としてはどうか ※「2. 構成のイメージ案」を参照

**（人材像の区分）**

- 地域に存在する多様な人材像を示した上で、リーダー、リーダーを支える層の二つに大きく区分してはどうか

**（対応策の柱立て）**

- 「地域力創造に関する有識者会議～最終取りまとめ（平成22年8月）」に沿った柱立て（3本柱）としてはどうか

## 2. 構成のイメージ（案）

### 人材力活性化プログラム（仮）

#### 1 趣旨

●地域活性化に向けた人材力活性化の取組の目指すべき方向性を示し、地域での取組の「気づき」となるものとし、指針と対応策を兼ねたものとしてはどうか

#### 2 基本的な考え方

●人材力活性化に携わる自治会・町内会、NPO等の地域活性化に関わる団体や自治体を主な活用主体として想定してはどうか

#### 3 求められる人材像

(1) 多様な個々の人材

●自治会・町内会、NPO等の地域活性化に関わる団体や自治体が、当該団体の構成員の人材力を活性化する場合や地域活性化に携わる人材力を活性化する場合の参考として用いることを想定してはどうか

(2) リーダー

●地域の多様な人材像を示し、リーダー、リーダーを支える層の二つに大きく区分してはどうか

(3) リーダーを支える層

#### 4 人材力の活性化に向けた三つの柱

(1) 個々の人材力の育成強化

●「地域力創造に関する有識者会議～最終取りまとめ（平成22年8月）」に沿った柱立てとしてはどうか

(2) 人材力の相互交流とネットワークの強化

(3) 人材力を補完するための外部人材活用に対する支援

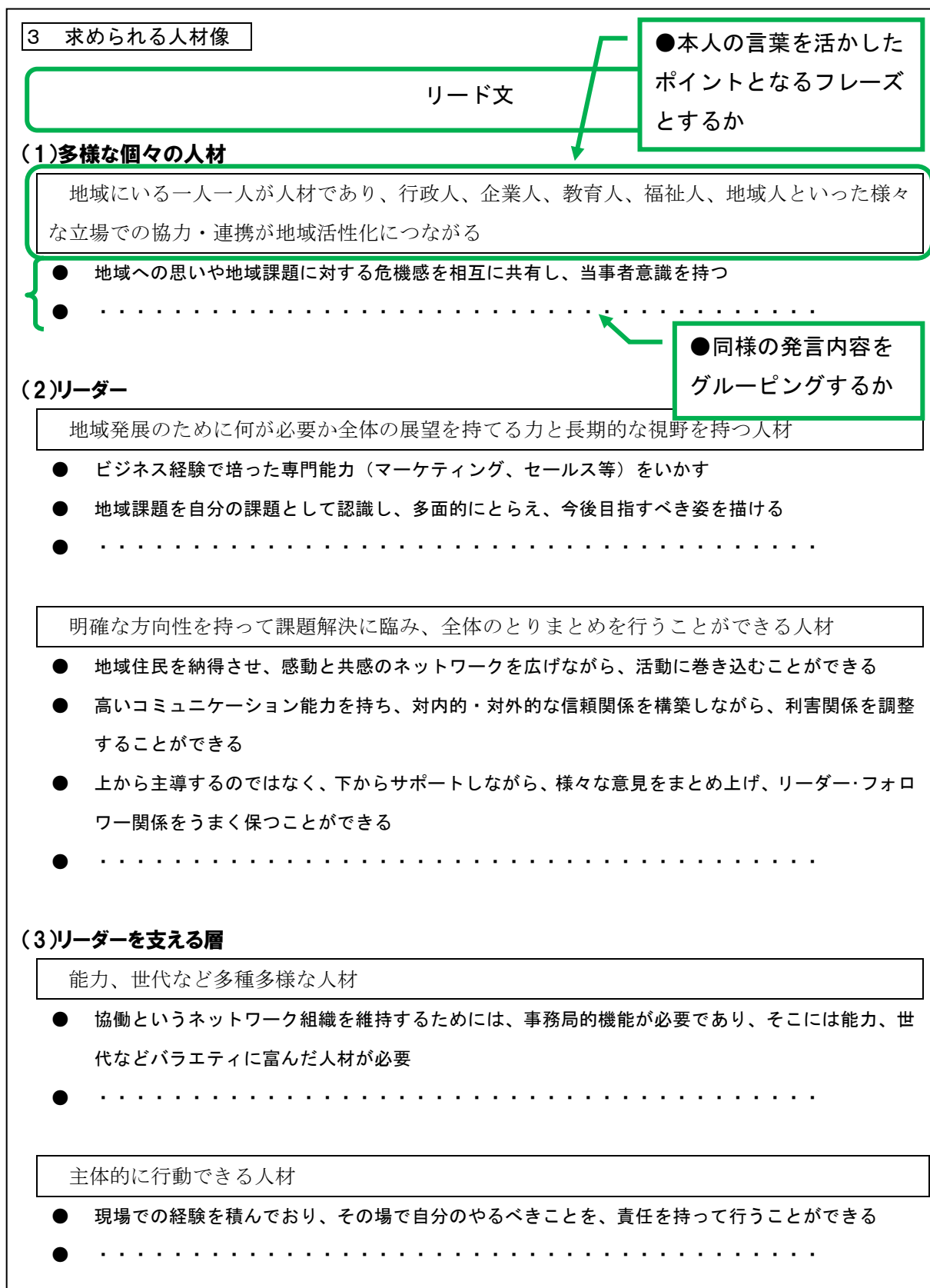
#### 5 今後の展開

●社会情勢等の変化を踏まえ、時代に対応して「進化する」プログラム及びカリキュラムを目指してはどうか

(参考1) 各構成員からの事例発表の概要

(参考2) 人材力活性化事例調査個表

### 3. 記述方法のイメージ（案）



#### 4 人材力の活性化に向けた三つの柱

##### (1) 個々の人材力の育成・強化

### リード文

#### i) 人材力を身につける機会

活動の「現場」における「人」との出会いが人を育てる

- 現場で活動している人に会い、ともに活動を行うことが重要。自分の価値基準で捉えきれない人物と出会い、刺激を受けることで人材力は向上する。
- 地域活動に必要な力（社会性、コミュニケーション能力、地域活動を行う作法等）は地域の人との顔の見える人間関係の中で育まれる

自分で考え、実践し、失敗し、悩み、試行錯誤を繰り返して成功したときの感動がエネルギーになる

- OJT と OFF-JT を効果的な組合せることが重要
- やる気のない人のモチベーションを上げるにはまず感動することが必要。感動を自主的な活動につなげるためには、成功体験を積むことが重要

楽しさが感じられないと人はついてこない。遊び心も大事

- 楽しさが感じられないと人はついてこない。楽しいことも一緒にしながら、課題にも取り組んでいけることが重要
- 楽しい活動にすることで子どもを巻き込むことができれば、子どもから子どもの家族やその周囲の住民に活動が伝播する

地区課題や生活上の困難にぶつかったとき、住民に地域を変えようというエネルギーが生まれる。そのエネルギーを住民の力に変えていく

- 行政と連携しながら、地域課題を提起し、住民が考えるきっかけを作ることが第一歩。さらに、集まって話をするので地域への思いや地域課題に対する危機感を共有し、住民一人一人が当事者意識を持つことが重要
- 関心のない人々も含めて、いかに人を集めるか、重要性に気づいてもらえるかが課題

参加者の目標や意欲に応じて異なる機会を用意する

- 参加者の問題意識、目的・目標、意欲が研修等の成果に大きく影響するので、そのようなものを持たない参加者が安易に参加できる機会は参加者にとっても有益なものとはいえない。
- 問題意識、目的・目標を持たなければ、スキルを身につけても実践に結びつかない。まずは、問題意識、目的・目標を持つことができる機会が必要

ii) 育成・強化の方向性

<子ども>

.....  
● .....

【参考となる取組（22年度人材力活性化事例調査より）】

【総務省での取組】

●対象を区分して、  
それぞれ方向性を示すか  
●どのような区分にするか

<大学生>

地元を離れ、他地域で奮闘する「ホンモノ」と触れ合うことで、視野が広がり、地元への誇り、問題意識が生まれる

●プログラムを活用する主体  
ごとに方向性を示すか

<自分自身の人材力を活性化したい大学生は>

- 現場で奮闘する大人達とともに活動し、自分の価値基準に収まらないものがあることを学生のうちに知ることが重要
- モチベーションが高くなければ、現場での経験も意味がない。意欲や問題意識を持って現場に入ることが重要

<大学生の人材力を活性化したい大学・団体・自治体は>

- 大学教育において、授業内外の地域実践活動をつうじて、地域を深く理解し、地域を誇れる人材を育成することが重要
- 問題意識、目的・目標、意欲を持たない参加者が安易に参加できる機会は参加者にとっても有益なものとはいえない。  
参加者の目標や意欲に応じて異なる機会を用意することも有効

【参考となる取組（22年度人材力活性化事例調査より）】

- ・筑波学院大学 オフ・キャンパス・プログラム（個表「武田氏」参照）
- ・愛媛大学 地域づくりのためのワークショップ入門（法文学部人文学科専門教育科目）（個表「野崎氏」参照）
- ・NPO 法人 Eyes 長期実践型プログラムによるインターンシップ（個表「横山氏」参照）

【総務省での取組】

- ・大学・高校との連携（地域活動の実践を通じた教育・研究活動のネットワーク化

●事例調査で収集した  
参考となる取組や総務  
省での取組を載せるか

<地域活動を生業としている人・したい人>

.....  
● .....

【参考となる取組（22年度人材力活性化事例調査より）】

【総務省での取組】

<生業と地域活動を両立させたい人>

.....  
● .....

【参考となる取組（22年度人材力活性化事例調査より）】

【総務省での取組】

<これまでの経験・知識・スキルを地域活動に活かしたい人>

.....  
● .....

【参考となる取組（22年度人材力活性化事例調査より）】